

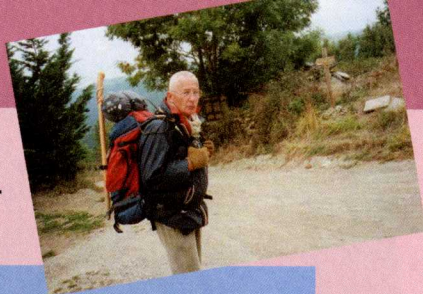
聖地・巡礼 — 自分探しの旅へ —

人びとは映像を通じて異文化に対する情報をえるようになりました。文化人類学者のカメラの眼は民族文化の様子を写し撮り、その記録は研究者にとって「聖なるもの」となりました。

今回の特別展では、民博で独自に撮影取材をおこなった映像と展示物によりスペインのサンチャゴ・デ・コンポステラ、四国巡礼、恐山、ルルドなどの「聖地・巡礼」、並びに世界各地で研究者の聖地ともいえるフィールドで撮影した記録映像を紹介します。映像と音声によって、聖地・巡礼を体験することができ、人類学者の辿ったフィールドをも視覚体験する絶好の機会です。

会 期：3月15日(木)～6月5日(火)

場 所：特別展示館



編集後記

昨年の秋、韓国の航空会社を使って欧州から帰国の際に、仁川(インチョン)国際空港から日本人女性ばかりのツアー団体と同じ飛行機に乗ることになった。皆、筒状に巻いたポスターを手荷物として大事そうに抱えている。「これ手垢付くのいややからまだなか見てへんけど、サインしてなかったらどーしよー。あたし、泣くわ。あはははは」と、関西弁で賑やかに会話をしている。ポスターはどれも、韓流スターのご尊影らしい。憧れのドラマの地に身をおき、幻想にどっぷりと浸かり、そしてその幻想のかけらを手に入れ満足そうに家路に着く女性たち。この体験は、しばらくは彼女らの元気の源となるのであろう。

博物館もまた人びとが記憶、幻想、疑似体験を求めてやってくる「観光」の場である。研究者が提示する「現実」は、ときには来館者の期待を裏切るということもありうる。だが、あなたの幻想は間違っていますよ、とただ否定しただけでは、来館者に不快感を与えるばかりだ。幻想の欲求を受け止めつつ、別の側面も教示する。そのバランスが大切なのだろう。観光業界で進む「幻想の復権」は、博物館のあり方をも変えてゆくかもしれない。(山中由里子)



交通案内

■大阪・千里万博記念公園内 ●大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。 ●阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。 ●自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。 ●タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。



次号予告/4月号特集
森

2007年3月号

第31巻第3号通巻第354号
2007年3月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話06-6876-2151

発行人 朝倉敬夫

編集委員 池谷和信(編集長) 櫻永真佐夫
川口幸也 庄司博史 山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画連携係へ
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます